



⑧「平和への誓い」を訴える右から高田雄真さん、三宅樹里さん、村中愛子さん⑨ひろしま平和の歌を演奏する小方中吹奏楽部⑩市内各小・中・高校生の折り鶴献納⑪司会進行の大役を担った大竹高校2年の松本紫音さん(右)と宮本椋羽さん⑫式典の手伝いしてきたことほうれしかった。小・中学生が参加して平和について考えることはいいことだと思います⑬「叫魂」碑に折り鶴をささげます⑭総合市民会館ロビーに展示された自作の平和ポスターを見に来ました。



8/6 WED 被爆80年 平和への誓い

総合市民会館「叫魂」碑前

午前8時15分、時計の針がそのときを指すと、町じゅうにサイレンが鳴り響きます。市原爆被害者友の会主催の『第43回大竹のヒロシマの日 原爆死没者追悼・平和祈念式典』の参加者らは、こうべを垂れ深い祈りをささげます。被爆80年のときを刻み、原爆死没者名簿には、昨年から20柱が加えられ、これまでの死没者2559柱とともに奉納されました。小・中・高校生による『平和への誓い』では、高田雄真さん(玖波小6年)、三宅樹里さん(小方中3年)、村中愛子さん(大竹高2年)が、それぞれ、戦争や被爆体験者がいなくなっていくことを憂いながらも、平和な世界の実現に向けて自分ができることを考え、強く訴えます。参加者の一人、大好き大竹応援大使の舞原ミキさんは、「戦後80年、広島というところだからこそ、平和を訴える声を上げなければいけない」と話し、献花をしました。二階堂和美さんの歌『伝える花』が流れる中、参加者の献花が続き、式典は幕を閉じました。



①参加者の『青い空は』の合唱②静かな祈りの時間③友の会の賀屋幸治会長の式辞④参加者の献花が続きます⑤祭壇に死没者名簿を奉納⑥死没者の冥福を祈り黙とう⑦白菊を供える舞原ミキさん。



8/6 WED 実の親子で熱演、『父と暮せば』

玖波公民館

ニューヨーク在住で舞踊や歌、演技など多彩な活動をする表現師、三宅由利子さんが、実の父親である三宅信之さんとともに、井上ひさし原作の戯曲『父と暮せば』の朗読劇を上演しました。この作品は原爆で亡くなった父親の幻と生き残った娘との対話劇です。三宅さん親子は、被爆により生死を分けた父と娘の物語を実の親子で演じることの意義を感じ、今年の7月にはニューヨークで2回の公演もしました。

公演後、秦景子さん(新町)は「今の世代が関心を持って残されている資料や作品で引き継いでいくことは大事。広島での活動を広げてほしい」と感想を聞かせてくれました。



①二階堂さんと三宅さんの共演で会場は盛り上がる②原爆死没者数をかたどったキャンドルが優しく光る③RCCアナウンサーの柳信行さんが司会進行④『伝える花』を歌う二階堂さんを見守る遺族代表⑤遺族によるキャンドル点灯⑥被爆体験などの朗読⑦市内の児童・生徒が紙コップに描いたキャンドル⑧キャンドルを並べるボランティアの大竹高校の生徒たち⑨「叫魂」碑前に並べられたキャンドルを見つめる人々。

イベントなどで撮影した写真は、「広報おたけ」、市ホームページ、市公式SNSや市の刊行物で使用するほか、マスメディアなどに提供することがあります。



被爆80年の前夜、「つなげよう未来へ！」と題し、『原爆死没者追悼イベント』が催されました。第1部の音楽コンサートは、三宅由利子さんの歌声で幕を開けます。ニューヨーク在住の三宅さんは、渡米後ヒロシマということ強く意識したと話し、映画音楽などの歌を披露。続く二階堂和美さんは、美空ひばりの反戦歌『本のえんぴつ』や自作の『いのちの記憶』などを歌唱。最後は二階堂さんの歌と三宅さんの舞踊で、会場を盛り上げました。第2部は『内海雅子朗読グループ』による被爆体験記や原爆詩集の朗読。語り部の川部良三さんは「朗読を通して今までわがこととして考えることのなかったものをわが子や孫にまで意識を広げて考えることができるようになった」と活動に対する思いを話してくれました。イベントの最後は「叫魂」碑前に原爆死没者数の「2579」の形にもしたキャンドルに包まれた中、二階堂さんの歌声が夜空に響きました。

8/5 TUE

2579の光に包まれて

総合市民会館

